
テイルズオブスクール！

カラオケ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズオブスクール！

【Nコード】

N3269Z

【作者名】

カラオケ大好き

【あらすじ】

テイルズシリーズのキャラクター（オリジナルキャラ有り）が、学園を舞台に大暴れ！皆様も彼らの学園生活を見て見ませんか？

始めに(前書き)

こちらの小説は、私が書いてるリポーン×マイソロ3のネタが無くなった時くらいにしか更新できません。あくまでもメインはリポーン×マイソロ3です。それでもいい方はどうぞよろしくお願いします。

始めに

始めに

これは、テイルズシリーズの学園ものです。キャラ崩壊LEVELは常にMAXです。まずは、メインキャラを紹介します。

ユーリ・ローウェル

(21歳)：テイルズ学園高等部3年C組の担任。たまに出番が無い時があるが、一応主人公。

エステリーゼ・シデス・ヒュラツセイン(通称、エステル)(18)：テイルズ学園高等部3年C組の生徒。ユーリ同様、たまに出番が無いが、一応ヒロイン。

フレン・シーフォ(21)：テイルズ学園高等部3年C組の副担。しかし、ユーリにいつも仕事を押し付けられる。たまに出番が無いが、一応メインキャラ。

高等部3年C組のメンバー：スタン(留年)、アツシユ、スパイダ、ウ、エイグ、リオン、ロイド、フォルカ、ウレス、シング、アスベル、ユージーン、ルーティ(留年)、シエリア、コレット、アーチエ、コハク、ナタリア、カノンノ(G)、リーリン・バークライト(オリジナルキャラ)、カノンノ(E)、(P)カノンノ 計21人。

高等部2年A組のメインキャラ：リユーナ・ライトニング(オリジナル)(担任)、パスカル(副担)、ヒューバート、ユーナ・ライトニング(オリジナル)、エミル、マルタ、クレア 計7人
中等部3年b組のメインキャラ：アルウ、ウン(担任)、クラトス

(副担) レイア、ジュード、イリア、ルカ、リタ、ソフィ、カ
イル、リアラ、イバル、ルア・マリアージュ(オリジナル) 計1
2人

初等部6年a組:カロール、ナン、プレセア、シーニマス、マオ、ル
カ・マリアージュ(オリジナル) 計6人

彼らのいずれかに、焦点を当てる短編小説です。(たまに、メイン
キャラじゃないキャラに焦点を当てるかも…)

よろしく願います(o^_^)(b

はじめに（後書き）

感想・意見、お待ちしております

4月は全ての始まり（前書き）

青春は人生にたった一度しか来ない。

（ロングフェロー）

テイルズオブマガジンは月に一度しかでない。

（ユーリ・ローウェル）

ユーリ、テイルズオブマガジンは月刊誌だから…

（フレン・シーフォ）

4月は全ての始まり

4月、ソレは新たなる学校生活が始まる月である。？「ヤベー、職員会議のこと忘れて熟睡してたわ。まっ、いつか」

と、大胆カミングアウトをしたこの青年の名前は、ユーリ・ローウエル。そして、「そうそう。アレって、面倒なんだよなあ」

と、ユーリ同様大胆カミングアウトしたこの青年は、アルウイン。この2人は、テイルズ学園の教師だが、面倒を嫌う性格上、職員会議はサボる、重要なことはサプライズと言ってその日の直前まで言わない(忘れている)と、ブラックリストに載りそうな2人だが、生徒と同じ目線で物事を考えてくれることから、生徒からの信頼が厚く、慕われている。【生徒の意思を尊重せよ】を教訓としているこの学園は、生徒の意思を尊重し、2人は多少の説教だけで済まされている。まあ、この2人はやる時はやる男達だ。だから、教師達も彼らのことを信頼している。

桜が舞い散る道を歩いていると、？「えっと…テイルズ学園は何処か知ってます？」と、ピンク色の髪の少女が尋ねて来た。

ユーリ「テイルズ学園なら、俺達がソコの教師だから一緒に行くか？」

？「あっ…ありがとうございます！」

アルウイン「良いつて。それより、お前って転入生？」

？「ハイ。今日から転入します」

ユーリ「ふーん。まっ、よろしくな」

？「ハイ」

と、会話をしながら彼らはテイルズ学園までの道を歩いた。

？「では。此処まで案内していただき、ありがとうございます」

と言って少女は、職員室に入って行った。

アルウインと、別れたユーリは、今日の連絡事項を副担任で幼なじみのフレンに聞くべく、教室に向かった。

別れた後、また再開するのは恥ずかしい（前書き）

余りに考え過ぎる者は何事をも成し得ない。（シルレル）

じゃあ、私はずっと、テスト中も授業中もエミルの事を考えて過
すね！

（マルタ）

は…恥ずかしいよ、マルタ（／／／／）

別れた後、また再開するのは恥ずかしい

始業式も終わり、生徒達はそれぞれの新しい教室へと向かった。その数分後、担任と副担任がやって来る。

？「おはよう皆。この3年A組の副担任のフレンです。学園生活最後の一年間だから、思い出をしっかりと作って、大学や就職に備えてしっかりと勉強をするように。じゃあ、担任のユーリが転入生と一緒に来るまで自由にして良いよ」

と言い、フレンは黙った。？「エミル」。HRサボって会いに来たよ」

？「うわあ！マルタ!?!」

と、バカップルオーラを出すのは、エミルとマルタ。テイルズ学園のバカップルその？である。しかし、ソレを上回る男が居た。

？「ロイド」

？「ロイド」

？「ロイドさん」？×3「この中の誰と付き合いたい？」

ロイド「コレット!?!しいなとプレセアも...」

ロイド。テイルズ学園一のフラグキングである。そして、コレット、しいな、プレセアは彼に好意を抱いている。そしてフレンはそろそろユーリが転入生を連れて来るか？と、思い生徒達を席に着かせ（他の組、学年の生徒は教室に帰らせた。）

ユーリ「...はあ面倒だ...転入生か...誰なんだ？」と、呟きながらユーリは校長室に来た。

ユーリ「入るぞ。痴女^{ちじょ}」と、ユーリは礼儀感0なことを言いながら校長室へ入った。そこには、本を優雅に読んでいる金髪の女性が座っていた。

ミラ・マクスウェル。テイルズ学園の校長である。しかし、彼女には色々と問題がある。彼女は百合で腐女子でDMなのだ。だが、仕

事は真面目にやるからこうして、校長の座にいる。

ミラ「嗚呼。ソコのソファーに座ってるのが転入生だ。よろしくな」と、ミラはユーリにソファーに座る人物について説明し、「仕事モードになりたいから出てけ」と、言い2人を追い出した。

ユーリ「…アンタって…さっき別れた奴だよ…な」

？「貴方って…さっき此処まで案内して下さった人です？」と、言い2人は黙り込んだ。転入生は、さっき別れたピンク色の髪の少女だった。

別れた後、また再開するのは恥ずかしい(後書き)

次回から、キャラ崩壊LEVELMAXのコメディー短編が始まります！

友達が…シリーズ第一段【私はぬいぐるみ以外の友達がない】（前書き）

エリーゼが中の人ネタで腐ってます。

ミラ・レイアも腐ってます。

今回からキャラ崩壊LEVELMAXです。

OKな勇者はどうぞ！

友達が…シリーズ第一段【私はぬいぐるみ以外の友達がいない】

私の名前はエリーゼ。テイルズ学園の初等部6年a組の生徒です。私には悩みがあります。ソレは、友達がいないことです。あつ。でも、友達って言っても、いないのは人間の友達で、ちゃんと友達はいますよ。ティポという私の保護者のジャオさんが、私の5歳の誕生日にプレゼントしてくれた喋るぬいぐるみです。私とティポはいっしょ一緒です。もちろん、学校も一緒にいきます。【生徒の意思を尊重】がモットーのテイルズ学園じゃ無い学校じゃ、普通に没収されてしまいますが、テイルズ学園だから、一緒に学校に行けるのです。でも、私がティポと仲良くすればするほど、a組の皆は私から距離を置きます。理由は分かっています。喋るぬいぐるみなんて気持ち悪い。そして、ソレを友達って言う私はもつと気持ち悪い。だから私、ティポから卒業して、ちゃんと人間の友達をつくりたい！……一週間後から。

ユーリ「何だよ。髭のオッサン。相談って」ワシの名はジャオ。テイルズ学園の教師だ。よく生徒からは「体を砂にできる？」と、聞かれる。ワシは人間じゃ！そんな人間離れた技など使えるか！そしてユーリ。ワシは一応先輩だ。まあ、そう言っただけで素直に聞くユーリでは無い。素直なユーリ？……（考えてる）……気持ち悪い。まあ今はそんなことどうでもいい。誰でも良いから相談を聞いて貰おうと思っただけだよ。コイツが居ただけだし。

ユーリ「オイ髭。俺に拒否権は有るか？」ユーリが何か言った様だが、そんなことはどうでもいい。それよりも大事なことがあるんだ！ユーリ「俺、帰るわ、アルウ、イン。後は任せる」

アルウ「イン「エツ！？何を任された！？」

ユーリ「アルウ、イン。…またな」

アルウ「イン「原作の名シーンこんなギャグ小説で使っなよ！」

はっ…いかにいかに。自分の世界に入り込んでしまった。さてと、

相談を受けて貰うか。ユーリじゃ無いが、本音を言えば誰でも良い。
「…相談を受けて貰うぞ。アルウゝイン」

アルウゝイン「エッ！（ユーリの奴…ジャオの話が嫌だから俺に押し付けたのか。…俺も…嫌だよ…）」

「実は娘っ子のことじゃが、遂に…友達づくりをするようなんだ！
アルウゝイン「ふーん…って、エッ！あのエリーゼが、遂に人間の友達づくり！？」

職員室に居る教員達「マジで！？」

「そうじゃ」

アルウゝイン「オイオイオイ。明日はメテオスウォームの雨が降って来るのか？」

クラトス「嫌、ジャツジメントの雨かも知れない」

リユーナ（TALES OF ENGAGE もよろしくね）「もしかしたら、インディグネイションが墮ちまくるかも知れねーぞ」

…コイツ達失敬だな。娘っ子が友達づくりをするだけなのに、何故驚くんだ。まあ…頑張るんだぞ、娘っ子。

友達づくりをするために、大切なこと。ソレは、共通の趣味！趣味が合う友達を先ずはつくります！よって、この一週間はクラスメートの観察です。

エリーゼのクラスメート観察日記1日目

先ずは、クラスメート？のルカ・マリアージュさん。（TALES OF ENGAGE のルカとは、同姓同名の別人です）別名、

電波少女？…です。あだ名の由来は、テイルズ学園では模擬戦のために、魔物を飼育していて、彼女は飼育係で、何故か魔物の声が聞こえると、電波発言して、あの電波少女というあだ名に繋がるんです。ちなみに、高等部に通ってるユーナ・ライトニング（TALES OF ENGAGE の主人公）も、魔物の声が聞こえると、電波発言をして、電波少年というあだ名が付けられている人が居るそうです。でも今の私には関係ありません。今は、ルカさんのこと

を観察しないと行けません。

ルカ「ラトラト？、プチプリ虐めて無い？エツ！パシリにしていた？じゃあ、ラトラト？は今日の餌の量を減らすからね」

ラトラト「?!?」

ルカ「ちゃんと皆と仲良くしなさい！」

ラトラト「*メ〇」

うーむ…何を言ってるのか、全然分かりません。やっぱりルカさんは電波少女です。私…あの電波少女とは、仲良くなれない気がします…

エリーゼのクラスメイト観察日記2日目

今日は、カロル君と、彼のガールフレンドのナンさんを観察しました。結論を言います。カロル君は将来、ナンさんの下僕になります。絶対に。だって、移動する時は必ず教科書を持ち、昼食の時は必ず彼女の好物を食堂に10分以内に買ったりと、カロル君は、下僕の鑑のような人でした。結論を言います。この2人も無理です。

エリーゼの上級生観察日記

あれから、私はクラスメイトを観察しましたが、友達になれそうにありません。だから、次は先輩の観察をしたいと思います。

今回は、電波少年こと、ユーナ・ライトニング先輩と、ユーナ先輩の幼なじみであるリーリン・バークライト先輩と、ユーナ先輩の義理のお兄さんのリユーナ・ライトニング先生の3人を観察します。

ユーナ「リン、兄さん。帰ろ！」

リユーナ「ユー。髪に埃が…よし。取れた」

リーリン「ユーとリユー兄は仲良しだね」

ひゃあああああああ!!!リユーナ×ユーナです!!!B Lです!あつ、実は私、腐女子です。小さい頃から男同士の絡みが大好きなんです。B L万歳です。そうだ!腐女子と友達になれば良いんだ!早速私は、腐女子情報を手に入れるため、ティルズ学園一の情報屋の所へと向かった。

僕の名前はジェイ。テイルズ学園の、新聞部の部員で、いつも一面の記事を任されています。そして、僕は趣味で情報屋をしています。つまり、「失礼します」という感じで、お客さんが来るのです。

エリーゼ「ジェイさん、テイルズ学園内の腐女子の情報を下さい！」
「たまに来るんですよ、こういう冷やかし…」

エリーゼ「冷やかしではありません！というか今、声にしてみましたよ！」

「はあ…分かりました。このテイルズ学園に居る腐女子は、レイアさんとミラ校長の2人ですよ」

エリーゼ「分かりました。ありがとうございます。ではこれは報酬です」

と言い、エリーゼさんは机の上に5000ガルドを置いて、部室から出て行った。

ジェイさんから貰った情報にあつたレイアさんとミラ校長を探すため、私は今校舎の中を走り回っている。

「レイアさん、ミラこうちょう、何処ですか？私を…私と、友達に…なって下さい！一緒にBLについて語って下さい！」

と、とにかく私は叫んだ。すると、願いが届いたのか

？「お前は、エリーゼか？」

？「どうしたの！？君！」

と、ミラとレイアが来てくれた。

「レイアさん…ミラ校長…お願いがあります…私と…友達になって下さい！私は、2人とBLで語りたいです！」

と、私は叫んだ。自分も、こんな声が出せるんだって、驚いた。そして、私はさらに驚くことになる。

「…合格だ。エリーゼよ、お前は今日から私とレイアの友達だ」
そう。私は2人の友達に認められたんだ。

私はもうティポはいらない。ううん。これからもティポは私の大事な友達。でも、私はやっと人間の友達が出来た。

くおまけく

ジャオ「よかったな、娘っ子」

アルウ「イン「コレで…良いのか？」

友達が…シリーズ第二段【私はぬいぐるみ以外の友達がない】（後書き）

次回は、俺の妹が…シリーズ第二段【俺の妹がこんなに電波なワケが無い】

お楽しみに！

俺の妹シリーズ第一段【俺の妹がこんなに電波なワケが無い】

前編（前書き）

今回は前編、後編に分けます。

俺の妹シリーズ第一段【俺の妹がこんなに電波なワケが無い】 前編

世の中には電波や中二病と呼ばれる、頭がアレな人達が居る。

俺、ルア・マリアーヂュの妹がソレに該当している。俺の妹の名はルカ・マリアーヂュ。テイルズ学園では、模擬戦という名目の下、魔物を飼育している。そしてルカは飼育係だ。しかし、その日から。ルカが電波少女になったのは…

私はルカ・マリアーヂュ。テイルズ学園初等部の6年a組の生徒だよ。そして！私には特別な力があるの！実は私：魔物の声が聞こえるの！魔物の飼育係になった日から、唐突に聞こえたの！きつと私は魔物に選ばれた勇者なのよ。うん、絶対。ルアは私は電波だ。っ
て言うけど、私は電波じゃ無いよ。ちゃんと友達だつて居るもん！
テイルズ学園で飼育してる魔物と、飼育係のユーナ・ライトニング先輩と、リーリン・バークライト先輩と、リユーナ・ライトニング先生の3人が友達だもん！しかも、ユーナ先輩は私と同じ力が有るもん！

…でも、ユーナ先輩には信じてくれる人達が居る。なのに…何で？
何で誰も私のことを信じてくれないの？

私はアンジュ・セレーナ。好きな物はガルド。HRにはいつも大好きなガルドの話をするの。そんな私には悩みが有るの。私の組の生徒の、ルカ・マリアーヂュさん。飼育係をしてから何故か、電波少女になってしまったの。

「というワケで、助けてね、アルえもん。」

アルウゝイン「アルえもんって何？俺は未来から来た猫型ロボットじゃねえよ」

「アルウゝイン。貴方に拒否権は無いわよ」

アルウゝイン「酷いわよ、アンジュ先生。可愛らしい後輩を虐めて何が楽しいワケ？」

「アルウゝイン、貴方は可愛く無いわよ。あと、私はガルドを返し

てくれない人を後輩とは言わないわよ」

アルウ、イン「ガルドの切れ目が、縁の切れ目!？」

「まあソレは、置いといて。アルウ、イン。ルカさんを監視して欲しいの…報酬は高くするわよ」

アルウ、イン「畏まりました。アンジュ様。ルカをバッチリ監視させて貰います」

翌日

俺ことアルウ、インは只今…後輩のリユーナ、その義弟のユーナ、その幼なじみであるリーリンの3人から…拷問を受けています…

数分前

俺は、アンジュ様からの依頼を遂行すべく、テイルズ学園の飼育小屋に来ていた。何か向かい側にエリーゼが居る。でも彼女俺の存在に気付いてないみたい。…あのノートが気になる…何アレ?死のノート?俺ロリコンの容疑で殺させるの?だ…大丈夫だ、アルウ、イン。エリーゼはコツチに気付いてないんだ。だからルカ(12歳)を観察して、アンジュ様から報酬を貰うんだ!と、意気込んでいたら何者かに肩を叩かれた。誰だよ…と、思いながら振り返ると…

リユーナ「アルウ、イン…」

ユーナ「何、小さい女の子を観察してるんですか?」

リーリン「アルウ、イン先生…ロリコンなんだ」

と、ゴミを見る様な目で俺を見てる3人が居た。で…石畳と先が尖ってる木製の板が床から戸もなく出てきて、俺は板の上に正座させられた。しかも、何か…石畳を乗せられています。ハイ

現在に至る

リユーナ「アルウ、イン、アンタは何故ルカを観察してた?」

「リユーナ、人をロリコンみたいに言うな!」

リーリン「ロリコンでしょ、どう見ても。ユー、石畳1つ追加してユーナ「アルウ、イン先生…すみません」

と、言いながらユーナは俺にまた石畳を乗せた。謝罪をするなら、

この石畳を置くのを止めて欲しいわ…ちなみにルカはというと…
ルカ「ラトラト　？プチプリ虐めて無い？…えっパシリにした！
じゃあ今回は餌の量を減らすね」
と、電波発言をした。…電波だ…電波少女だ…向かい側を見るけ
どエリーゼは既に逃げていた。つまり、俺は囷にされたんだ…どう
なるの、俺…

俺の妹がこんなに電波なワケが無い 中編（前書き）

今回は前回の続きです！

俺の妹がこんなに電波なワケが無い 中編

俺はルア・マリアージュ。今俺が居る所は、ティルズ学園の男子学生寮だ。ティルズ学園は、宅登下校と、学生寮の2つが有り、俺と妹のルカは学生寮に居る。また、割合的には学生寮は全校生徒の約60%つまり、大半を占めている。

そんな部屋の1室に、俺と友人のユーナ先輩が暮らしている。この人もルカと同じで魔物と会話するという電波発言をしているけど、何故かこの人なら信憑性が有るといふ不思議な人だ。

だから、ユーナ先輩がルカも魔物と話せる力を持つてる。という発言も納得出来てしまう。

…俺も兄としては妹を信じたい。でも、電波少女を元の少女に戻したいという気持ちも有る。俺は…どうすれば良いんだ…

僕はリーリン・バークライト。ティルズ学園高等部3年の生徒です。今僕はユーナとリユーナ兄と後輩のルカと、魔物の世話をしています。ラトラト？「ユーナ！ご飯」

ユーナ「ハイハイ。今日はプチプリ虐めて無いよね？」

リユーナ「いつ見ても、カオスだよな…この光景」

「でも、何故か信じれちゃう」

ユーナは昔から色々な人達の中心だった。今もこの4人の中心はユーナだ。そのまま僕達は鐘が鳴るまで魔物達と遊んだ。…遊びすぎて遅刻しそうになっただけ…

俺ことルアは今、魔物の飼育小屋に来ていた。妹が聞こえるとなると、もしかしたら俺も聞こえるかもしれないからだ。まあ…聞こえたら俺も電波扱いされそうで恐いけど…と、思いながら魔物を見ること約数分、魔物の声は全く聞こえなかった。

「やっぱり…」

と、呟き俺は飼育小屋を後にした。その時一瞬、「おいプチプリ、跳べよ」という声が聞こえた様な気がした。

オマケ

俺はアルウゝィン。昨日はエリーゼのせいでロリコン扱いされかけ
ユーリ「よっ、ロリコン」

ジェイド「おはよっ、おはよっ。ロリコン」

…もう俺…ロリコン扱いされてたよ…

俺の妹がこんなに電波なワケが無い 中編（後書き）

次回、遂にマリアージュ兄妹編クライマックス！
電波少女ルカと、兄ルアの運命や如何に！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3269z/>

テイルズオブスクール！

2011年12月31日01時48分発行